

第 26 期日本学術会議 薬学委員会 第 1 回基礎系薬学分科会 議事概要

日 時 令和 6 年 5 月 9 日（金）14:00～16:00

場 所 日本学術会議 6-A 会議室（1）及びオンライン会議システム（Zoom）

参加者 分科会委員 23 名、オブザーバー 1 名、日本学術会議事務局 1 名
（以下、敬称略）

眞鍋史乃、赤羽悟美、新井洋由、一條秀憲、井上 豪、内山真伸、遠藤玉夫、小川美香子、加藤晃一、神谷真子、北川裕之、佐治英郎、武田真莉子、津本浩平、徳山英利、中島美紀、永次 史、庭山聡美、樋口ゆり子、深見希代子、藤田直也、三澤日出巳、南 雅文

日本学術会議事務局：上野倅奈

オブザーバー：石井明子（新委員予定）

欠席者 山崎真巳、井上純一郎

議 題

（0）委員の自己紹介

各委員より自己紹介がなされた。

（1）第 26 期分科会の設置及び世話人について

世話人として、薬学系委員会の役員である眞鍋委員が委員長に、生物系薬学分科会の委員長であった藤田委員が副委員長を務めることが承認された。また、生物系薬学分科会で幹事であった中島委員と化学・物理系薬学分科会から井上豪委員が幹事を務めることが承認された。

委員長より、日本学術会議の構成や分科会の位置付けについて説明がなされた。生物系薬学分科会と化学・物理系薬学分科会とを統合し、基礎系薬学分科会として設置された経緯ならびに分科会として行うべき活動（意思の表出）について説明された。

（2）現在進行中法人化に向けた動きについて情報共有

委員長より、法人化に向けた動きについて説明された。

（3）第 26 期分科会活動計画について

基礎系薬学分科会として、どのような活動を行なっていくか意見交換をおこなった。研究力の向上、若手研究者育成、大学院進学率の向上、薬学研究の重要性の発信などが課題であることが議論された。前者 3 つは薬学に限った問題ではなく、日本全体の問題であるため、他の分化会と併せて、日本薬系学会連合との共催で、あるいは日本学術会議として、など、どのような議論の進め方がよいか、他の分科会や日本学術会議全体の流れをみて、今後さらに協議することとした。

以上